

令和8年度 シニア山口 山口支部運営方針

「老後の幸せは、自らの手で創り出そう」と全国各地において、昭和37年老人クラブが生まれ、昭和38年に老人福祉法が制定されて半世紀以上が経過しました。

全老連では健康への取り組み、地域の支え合い活動等「新たな絆社会」を目指した事業が進められています。

その中で、山口市老人クラブは平成の合併により、県内で最大の老人クラブとなり、特に山口支部は市老連の中心的役割を担ってきました。

現在、山口支部では全老連が推進する三大運動の「健康・友愛・奉仕」をスローガンとして、高齢者の語らいの場や生きがい・健康づくりの拠り所として、多くの事業を実施しています。

また、平成23年度発足した若手委員会は、会員増強を目指して、委員会の意向をクラブ活動に取り入れることにより、クラブの活性化を図っています。

しかしながらここ数年は、高齢化人口が増加するものの、老人クラブ会員は減少しています。

少子高齢化が進む中であって、団塊世代が75歳以上になる2025年には「地域包括支援センターシステム」を中心とした介護福祉制度が始まりました。この制度は、現在においても看護師、介護士が不足しており、重度の要介護者等に対しまして、今後対応が手薄とならざるを得ません。このことから軽度の要介護者の方が安心して住み慣れた地域で暮らし続けるためには、地域における相互の支え合い活動が必要不可欠です。老人クラブとして、この支援システムの構築に寄与するため、これまで行政や関係団体等と連携を図りながら、研修会等を積み重ね準備を行ってきたところでありますが、さらに「地域の支え合い活動」の継続的な実施に努めていきます。

会員増強運動に積極的に取り組み、健康づくり・生きがいづくり等、豊かで楽しいクラブ活動を目指して次のとおり事業を積極的に進めます。

I 重点目標

1. 組織の活性化と事業の推進
2. 若手委員会を中心とした会員増強運動の推進
3. 地域の将来における超高齢化社会を見据えた「地域支え合い活動事業」の推進
4. 市町老連活性化事業の推進

II 事業

1. 若手会員、若手・女性役員の登用
2. 市町老連活性化事業の推進
 - ①スポーツ委員会による健康な身体作りの推進
 - ・「自分の健康は自分で守る」をスローガンにした、各種スポーツの実践と大会への参加
 - ・いきいき 100 歳体操への参加への促進
 - ・いきいきクラブ体操の普及
 - ・フレイル予防活動
 - ②女性委員を中心に、楽しい仲間づくり活動や友愛訪問活動・小グループ活動の推進
 - ③互助が地域の高齢者の暮らしを支え合うことから、会員の連携による日々の生活の支援体制を構築する。
 - ④地域行事への積極的な参加と「地域支え合い活動事業」推進
 - ・各地域での見守り活動や交通安全活動などへの参加
 - ・地域支え合い活動研修会の実施
3. 若手委員会の活動推進と会員増強の促進
 - ①会員増強ゴルフ大会・カローリング大会等の実施
 - ②会員加入促進 PR 用パンフレットの活用
 - ③1 単老における 2～3 名の新規会員の増加、支部 60～74 歳会員 2%の増加